

利用学習計画書

平成25年4月17日

担当 第6学年 福田 理枝

1 ねらい

- (1) 身近な地域に残されている遺跡や展示資料を見学し、旧石器時代や縄文時代の暮らしの様子や文化について理解を深める。
- (2) 縄文土器作りの活動を通して縄文時代の人々の知恵を知り、歴史学習に対する関心を高める。

2 評価

- ・遺跡や展示資料を見学し、旧石器時代や縄文時代の人々の暮らしや文化について理解を深めることができたか。
- ・体験活動を通して、縄文時代の人々が工夫して生活していたことを知り、歴史学習への興味・関心を持つことができたか。

3 学習活動について

(1) 教科名及び単元名

社会科 単元名「米作りのむらから古墳のくにへ」

(2) 身に付けさせたい態度・力

- ・自分たちの住んでいる地域にも遺跡が存在していたことを知り、地域の歴史に関心をもち、進んで学習しようという態度。
- ・旧石器時代や縄文時代の人々の暮らしについて理解する力。
- ・地域の歴史に対する課題を見つけ考える力。

4 事前指導

- ・縄文の森広場の概要について説明し関心を持たせる。
- ・縄文時代についての知識を確認しておく。
- ・当日の学習の流れについて説明し、活動内容を確認させておく。

5 当日の指導（活動）内容

<地底の森ミュージアム>

(1) 見学学習

全体で館職員の説明を聞きながら学習<学習ノートを利用>

- (2) 体験学習  
石器づくり

<縄文の森広場>

- (1) 見学学習  
復元住居・遺構表示等の野外展示及び館内の展示見学  
体験学習終了後、見学をする。<探検ノートを利用>

- (2) 体験学習  
石のアクセサリー、勾玉

6 当日の交通手段 貸し切りバス

7 事後指導

見学したことや、体験したことを個人でワークシートにまとめる。

# 利用学習報告書

平成25年5月24日

担当 第6学年 福田 理枝

## 1 事後指導について

### (1) 実施日

平成25年5月1日(水) 3校時

### (2) 主な内容

探検ノートや体験活動の作品をもとに新聞を作り、学習を振り返る(社会科)

## 2 送付する資料

児童生徒の作成資料(3名分)

# 歴史新

## 氷河期の木

六年生で最初の校外学習は地底の森ミュージアムと縄文の森広場に行くことでした。

最初に行ったのは地底の森ミュージアムで、地下の展示室には木の根の化石が広がっており、シカのふん化石や、昔の人がキャンプをしてる器を作ったあと、木の根の化石の間にもありました。

氷河期の高木に生えていた木は針葉樹で化石はくさくさいように葉をぬけているように見えます。

「よみがえる2万年前のある日」という映画



2万年前の木の化石

## 昔の人たち

狩りのくわ

地底の森ミュージアムでは石器づくりの体験をさせていただきました。ひびの上でけつ若といふ若をたたくくわいで作るのびひびがいたくなくなりましたが昔の人の苦労がわかりました。



縄文時代の家



答は最後!!



## 勾玉作り

地底の森ミュージアムで行った縄文の森広場では、展示物を見る前に体験をしてみました。土器づくりと勾玉づくりのどちらかを選ぶことができて、僕は勾玉を選びました。ががが、このような形の滑石という石をブロッコイヤすりを使って勾玉の形にします。僕のは白く少し黒色がかって、すりやすりがみかくととてもつるつるになりました。



勾玉

石器時代  
縄文時代  
土器時代  
土器時代



旧石器

石器か？  
器土器か？  
石に古い  
旧代は全

## 縄文時代の生活

外の堅穴住居は雨で見る事ができませんでしたが、館内に復元されている堅穴住居の一部分を見ることができました。中は土間、天井には、魚や肉などが干してありました。うんちの人の人形があり、ヤリを修理していました。昔の人の家にはトイシや風船がないのですが、中べ部に大きな火があり、うんちと魚を周りに干して居ました。



縄文時代  
住居



答は最後!!

地底の森ミュージアムと縄文の森広場も楽しんで家族と一緒に来た。11月

# 縄文の森 地底の森林新聞

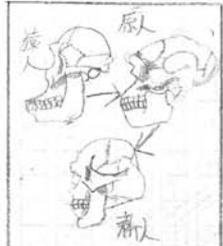
作者 30p  
46 (金)

地底の森林ミジュンア  
ムで学んだこと

ほくが 地底の森ミジュンアムで学んだことは、二つあります。

一つ目は、人類の進化です。

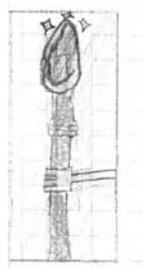
二万年前は旧石器時代とよばれていました。そのころの人は猿や猿に近い猿のような骨格をしていました。それから、猿人、新人、現代の人間となりました。



二つ目は、旧石器時代の生活のようすです。昔は、家などがないので、たき火をして土手でくらしていました。食糧などは、狩りなどでとって、養いながら生きていきました。

その道具で狩りをしてとったものを、主に槍と矢で使っていました。槍は、ナイフの形をしたもので、石を割って使っていました。

でも、その石器も、いつかは使えなくなるので、石を割って使っていました。



三つ目は、旧石器時代の自然のようすです。旧石器時代の土地は、まわりより低く、沼や池が多い平な土地でした。

土地に生えている樹木は、トウじやゲイムツなどの針葉樹で、湿度が低く、スゲやキクのような草が生えていました。

今の仙台あたりの森のようすとちがうところは、平均気温が低く、夏と冬の気温差が大きいことです。

これ地底の森でミジュンアムで学んだこと

## 縄文の森広場で学んだこと

縄文の森広場で学んだことは、一つです。

縄文時代は、旧石器時代の次の時代です。縄文時代は、石で道具をつくり、使っていました。

例えは、矢先につけるのたたり、木の皮をすりつぶすのがあります。

縄文時代は、土器をつくり、使っていました。土器の形は、丸い、平たい、いろいろな形があります。

縄文土器の出来上がりです。

そして、旧石器時代と変わらぬことがありますが、それは、狩りをするということです。縄文時代は、木の葉を折り

ますか、狩りもしてました。そこで重要なのが、家です。旧石器時代は、穴を掘って住居を作りました。縄文時代は、たて穴住居という家もありました。それモクリの木でつくられた家です。地面より低いので、草におおわれています。

縄文時代は、たて穴住居という家もありました。それモクリの木でつくられた家です。地面より低いので、草におおわれています。これは縄文の森広場で学んだことです。

## 感想

縄文時代は、旧石器時代とちがって、土器をつくり、使っていました。土器の形は、丸い、平たい、いろいろな形があります。

縄文土器の出来上がりです。

そして、旧石器時代と変わらぬことがありますが、それは、狩りをするということです。縄文時代は、木の葉を折り



# 大昔新聞

向山小学校六年  
平成十五年四月十六日

## 富沢の一万年前

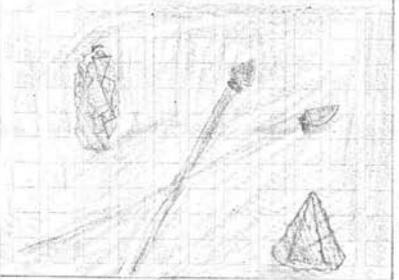
四月二十六日、地底の森ミュージアムに行き、さまざまな物を見学しました。

まず、富沢遺跡を見学しました。中はちびちびとむし暑く、うす暗くなっています。手すりの向こうにはさまざまなものがありました。館の人がいろいろな説明をしてくれました。中には、木の根、シカのフン、生活のあとなどがあり、その生活のあとのまわりには石などがたくさん散らばっていました。その後、映画を見ました。

## 一万年の縄文時代

地底の森ミュージアムに行き、たあと、縄文の森広場に行きました。最初にお昼を食べ、その後、勾玉づくりをしました。いろいろな生

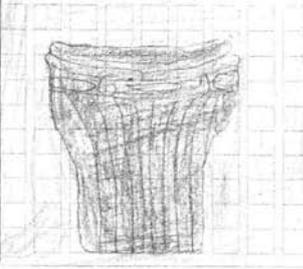
代のこと、「旧石器時代」というそうです。次に石器作り体験をしました。シカのついで頁石という石をたたいて、やりのさきの形にするという体験で、なかなか思いどおりにはならなく、昔の人はこんな大変なことをしていたんだなと思いました。昔の人はすごいなと思いました。



きました。次に、ガイダンス施設を見学しました。この日は雨だ、たため、外は見学できませんでした。しかし、ガイダンス施設の上の階で、たて穴住居などが見えました。この遺跡は、「山田上ノ台遺跡」という名前で、およそ、四千年前の物だそうです。

それから、展示室へ行くと、縄文のむらのくらしについて調べました。中には、家の中の様子、縄文土器、かきのしのかたなどがあります。

ました。もけいぞ、とてもきれいでした。とても、勉強になりました。



## あとがき

昔の人々は、知恵をしぼって、いろいろな工夫をし、協力してくらしていたということがわかりました。わたしも、家族、友達と協力し、かけがえのない家族、友達との一日を、大切に生きていこうと思います。